

お客様ご紹介



独立行政法人
国立病院機構
下志津病院 院長
吉田 孝宣様

【ご挨拶】

国立病院機構下志津病院にとって長年の悲願であった新重症心身障害者病棟が、株式会社久慈設計さんのご協力で遂に完成いたしました。B型通園施設と療育訓練室も同時に新しくなり、40年近くもたった古い病棟でご辛抱頂いた皆様には何よりの朗報となりました。このすばらしい新病棟を大切に運用して、よりよい障害者医療を目指したいと存じます。

今回は、その出来映えを株式会社久慈設計さんにご紹介いただきたいと存じます。



独立行政法人 国立病院機構 下志津病院

施工地/千葉県四街道市鹿渡934-5
竣工年月/平成23年8月
構造/鉄筋コンクリート造2階建
敷地面積/56,767.44m²
延床面積/4,382.27m²
病床数/120床

効率的な医療環境の構築

建設から40年が経過する国立病院機構下志津病院の重症心身障害者病棟は、充実した医療環境の整備と分散して立地する病棟の一元集約による効率的な医療体制の構築のため、老朽化が進む病棟の改築を計画し本年8月に完成いたしました。

新しい重症心身障害者病棟は120床を有する病室中心に1階に療育訓練室、2階に重症心身障害児のための通園ルーム「ひまわり」などの諸室を配置し、患者様のアメニティー・プライバシー・安全を確保し、看護スタッフの快適な看護環境を実現する施設造りを行いました。



エントランス・エレベーターホール



スタッフステーション



病室(4床室)

機能的施設の創造

新病棟は近隣の学校・住宅に隣接する位置への計画の為、周辺環境との調和や他の病棟との色調に配慮し、華美華麗な装飾を排除したシンプルな意匠・色彩計画としました。

内部は利用者に落ち着きと温かみを与える木調を中心に、抗菌・耐薬品性に優れた仕上げ材を採用し清掃・メンテナンスの容易な計画として、維持管理に配慮する計画としてあります。また、将来の医療体制やニーズに柔軟に対応できるよう各室の間仕切壁は、レイアウト変更等に容易に対応する遮音性を確保した乾式間仕切壁としてフレキシビリティのある長寿命な施設を目指しました。

空調設備には個別の制御性や各種コストの優位性を考慮し、省エネルギー・省資源に優れた空冷式ヒートポンプ方式にて計画しました。総合的に環境負荷の低減に配慮し環境保全を視野に入れた医療施設の構築を行いました。



療育訓練室

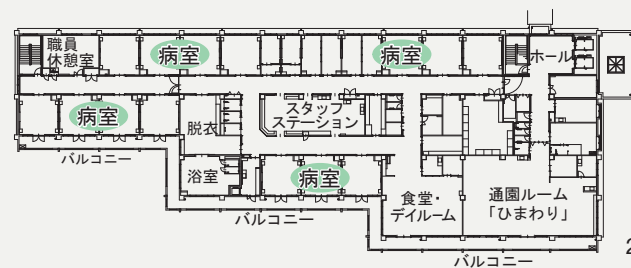


通園ルーム「ひまわり」

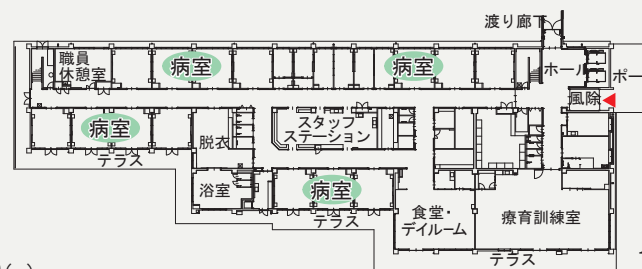


家族室

平面図



2階平面図



1階平面図



0 5 10 20(m)